

日常生活のなかの緑のカーテンによる栽培体験についての質的研究

矢部恒彦*

*法政大学社会学部
e-mail: yabe@hosei.ac.jp

A Qualitative Study on Green Wall Cultivation Experiences in Everyday Life

Tsunehiko YABE*

*Faculty of Social Sciences, Hosei University

Summary

In recent years, popularity of small and temporally green wall cultivation is continually increasing each year in Japan. To encourage this trend further, it is important to examine and support ordinary people's cultivation experiences. The purpose of this study is to describe these cultivation experiences in detail. To enable a rich description, the focus was on the blogs with texts about horticultural activities involving green walls, and Otani's SCAT qualitative text analysis was conducted to clarify the participants' cultivation experiences. The experiences have two branches. One branch of experience begins with "observation" which gives rise to a local knowledge of cultivation, consequently "casualizing" people's experiences. The other branch begins with "appreciation" and gives rise to feelings toward the four seasons and an awareness of plants as a form of life, consequently "deepening" people's experiences. In the future, it would be interesting and enlightening to conduct public relations activities that focus on this divergence of experience to promote the spread of green walls.

Keywords : bitter melon, blog, green wall, *Momordica charantia* L. var. *pavel*, SCAT analysis, text analysis
ゴーヤ, ブログ, 緑のカーテン, ニガウリ, SCAT 分析法, テキスト分析

はじめに

1) 研究の背景

近年、緑のカーテンが着目されている。その社会的背景として、住環境における省エネ推進の潮流を挙げることができる。たとえば、環境省所管の啓発活動(地球温暖化防止国民運動事務局, 2013)では、オフィスや商業施設・官公庁・個人宅など、産官学のさまざまな人々による取り組みが紹介されている。

このような社会貢献先に先立ち、まず著者が着目したいのは、リビングなどの窓辺での植物栽培は、日々の暮らしのなかの栽培体験であるという点である。そして、NPO 法人緑のカーテン応援団(2009)による栽培への誘いでは「環境に良いことをしなければ」と、何かの活動を始めても、それが続かなければあまり意味がありません…そのためにも、まずは楽しむことが大切です。」と強調されている。緑のカーテンは、日々の栽培体験による楽しみをもたらすものである。

場所のみならず、カーテンに仕立てられる植物も、親しみやすい種が選ばれる。本研究では、わけてもゴーヤ：ニガウリ／ツルレイシ (*Momordica charantia*

L. var. pavel) に着目する。1年草という気楽さ、病気や害虫に強いなど初心者にも扱いやすい性質をもつうえ、開花や収穫などの楽しみもある。こうした特徴から、児童向けのカーテン栽培指南書(菊本・のぐち, 2012)でも最初にゴーヤが紹介されるなど、栽培に不慣れな人々にとっても手軽な存在となっている。

この楽しみや手軽さを、人々が受け入れることが省エネ効果による社会貢献の原動力となる。たとえば、環境行政担当者が、東日本大震災後の節電のための緑のカーテン普及への取り組みを報告している。そこでは、行政や企業など大規模施設の緑化を進めるのではなく、緑のカーテンを栽培するライフスタイルを、多くの市民に受け入れてもらうことを政策の具体的目標としていた(鈴木, 2012)。

「ライフスタイル」として、つまり、日常生活のなかの栽培体験に着目した研究によって、栽培がもつ楽しみや手軽さを明らかにすることが、これからの緑のカーテンの普及に役立つと考えることができる。

2) 既往研究と研究の目的

緑のカーテンが室内の物理環境に及ぼす効果は、ツタについての測定から始まり(梅干野ら, 1985)、近

平成 26 年 11 月 3 日受付. 平成 27 年 3 月 31 日受理.

人植関係学誌. 14(2):9-16, 2015. 論文(原著).

年では、小学校の教室（成田，2007），集合住宅（加藤ら，2012）などにおいても定量的な研究が蓄積されている。こうした研究は、個々の緑のカーテンを総合した省エネ効果の最大化という、人々に理解されやすい社会的目標の設定へと繋がると思われる。

一方、栽培についての人々の意識調査も始められており、学校（延原・浅野，2010）や、地域団体（大井ら，2011）など組織を対象としたアンケート調査がある。さらに、無作為抽出による地域住民へのアンケート調査（尾崎ら，2009）によれば、半数以上の住民が栽培を「行いたい」が、手間などを考慮すると1割の住民のみが実際に栽培が「行える」と回答するに留まっている。

この「手間」をどのように乗り越えれば良いのだろうか。栽培するときの「手間」と置かれる受け止め方として、「楽しみ」を挙げることができると考えられる。

身近な植物による楽しみについては、下村ら（2007）による住宅室内の実態調査において、7割で植物が置かれ、さまざまな癒し効果が回答されていることが明らかにされている。また、松尾（2005）は、植物と人との関係についての総覧から、栽培体験における「育てる」楽しみとは、「…長期間、継続的に、辛抱強く関わって」、つまり栽培の手間を掛けていくうちに、「対象に情が移り、愛着がわく」、つまり植物に楽しみを見いだすという過程を概説している。松尾の研究にしたがい、本研究の目的を、ゴーヤによる緑のカーテンという特定の事例において、テキストの質的分析によって、人々の栽培体験の詳細を明らかにすることとする。そのうえで最後に、いかに楽しみを深めていくことができるのかを考察する。

1. 研究方法

1) 質的テキスト分析の概要と流れ

本研究では、人々の栽培体験が述べられたテキストとして、趣味活動としての緑のカーテン栽培を主題としたエントリ（一日分の日記文章）をもつブログに着目した。

各人ブログの文章テキストについて、大谷（2008，2011）のSCAT（Steps for Coding and Theorization）に沿って質的分析を行った。質的分析においては、分割されたテキストに対して、研究者がコード（ラベル）を付して内容を縮約するコーディングが行われる。SCATは、コーディングに際して、「研究者の頭のなかで暗示的になされているプロセスを明示的な手続きに表したもの」（大谷，2008）であり、一人だけの聞き取り調査のテキストなど、比較的小さな規模のデータにも対応した質的分析の手法である。これにより、各人ごとに記事全体の要約を行った。さらに、各人ごとの要約を集約し、栽培体験の典型例としてまとめた。

第二段階として、SCATにより得られた各人ごとの論理記述をコード化し、これを分類整理して、類似したコードを集めることでカテゴリとサブカテゴリを構築した。ここから、対象ブログ全体のテキストを、カテゴリ相互の関連にもとづいて全体から細部までを俯瞰して読みとり、考察をした。

2) 調査対象ブログの選択

質的分析に際して、全テキストを読み込んだうえで、分析を容易にするため、できる限り少数である一方、多様なブログ主によるテキストを得るため、検索サイト複数を利用して対象を設定した（第1表）。

Table 1. Blogs analyzed in the study.
第1表. 調査対象ブログ.

検索サイト	ブログ主	ブログURL
ブログ村	A	http://tureduremylife.blog.fc2.com/blog-category-4.html
	B	http://shinmeikai.blog.fc2.com/blog-entry-714.html
	C	http://fredfredy.blog106.fc2.com/blog-category-16.html
	D	http://blogs.yahoo.co.jp/abo54natsumi50/folder/280126.html
	E	http://dokodemo.cocolog-nifty.com/blog/2013/08/post-ce83.html
google	F	http://rikukaisora88.blog54.fc2.com/blog-category-25.html
	G	http://blogs.yahoo.co.jp/tsuchiya_0711/folder/498538.html
	H	http://blogs.yahoo.co.jp/benrycb92/MYBLOG/

まず、第一に、ブログ主（ブログ著者）が登録し、読者によるアクセス数を競う形式のランキング・サイト「にほんブログ村」（2013）を利用した。同サイトの絞り込み検索で、盛夏期となる2013年8月1～10日のエントリに対して「グリーンカーテン（or）緑のカーテン」の検索を行い、上位から内容を確認し、個人、趣味の栽培のみのブログであり、かつ、ゴーヤ栽培を中心とした日記が記載された5ブログを選択した。

第二に、検索精度が高いと考えられる検索エンジン「google」（2013）を利用し、2013年7月20日～8月20日のエントリに対して上記2ワードのブログ検索を行い、こちらもランキング・サイトと同様の選別方法で、上位から3ブログを選択した。

以上によって選択されたブログは、性別、高齢者から職業をもつ壮年までの年齢層、関東以西の居住地など、さまざまなブログ主（ブログ著者）によって記述されており、多様性が確保された対象ブログと考えることができた。

2. 対象ブログと緑のカーテンの仕立て方

1) 対象ブログ記事の特徴と切片化

調査対象となるブログ記事の特徴を概観するため、緑のカーテンを扱ったエントリのみを抽出し、文字の数を計数した（第2表）。

ランキング・サイトから選択したブログは平均18エントリとなり、これは、栽培期間5か月と概算す

Table 2. Quantity of texts analyzed for each blog.
第2表. ブログごとの対象テキスト分量.

検索元 ブログ主	にほんブログ村					google		
	A	B	C	D	E	F	G	H
エントリ数	20	11	28	12	17	12	8	7
分析対象文字数	11631	5094	4044	2932	2119	805	617	338
1エントリ文字数	582	463	144	244	125	67	77	48
切片数	59	26	46	23	25	19	10	9
1エントリ切片数	3.0	2.4	1.6	1.9	1.5	1.6	1.3	1.3
1切片文字数	197	196	88	127	85	42	62	38

ると、ほぼ毎週日記が更新されたことになる。一方、google から選択したブログは、平均9 エントリと約半分の間隔の更新となる。

両者の差異は1 エントリ平均文字数でも顕著で、前者では平均400 字超の2 ブログがあり、全てのブログが平均100 文字以上であるのに対し、後者は全て平均100 文字未満であった。この傾向は、前者では読み応えある文章、後者では簡潔な文章によって構成されたブログが、各々選択されたことを示している。

また、各エントリを、SCAT 分析を行うために、一まとまりの話題を扱った文章ごとに切片化した。切片数および1 切片あたり文字数は概ね全文字数と相関しており、読み応えあるブログほど多様な話題が挙げられていることが示されている。

2) 緑のカーテンの空間的概要

緑のカーテンについての文章に加え、掲載された写真も参考にして、栽培場所の空間的特徴を読み取り整理した(第3表)。

戸建住宅は7 事例(うち3 事例は同一のブログ主による)あり、緑のカーテンはいずれも地上に設置され、全事例で隣地や道路との間隔が2m 以上確保されている。

た。集合住宅の3 事例は、すべてコンクリート等の耐火建築で、奥行き2m のバルコニーにコンテナを設置し栽培していた。設置方位は半数以上が南であり、北向きは無く、日射遮蔽が必要な場所で栽培されていることがわかる。

設置されたカーテンの寸法については、2 階軒まで成長したA さんの1 事例、2 階の窓下まで達したH さんの事例のみが高さ2m を超えていた。両事例とも、高く仕立てる際にはコンテナ栽培ではなく、地植えが選択されることを示唆している。

上記以外では、コンテナ栽培、高さ2m の事例が多数であった。これは、栽培者が手を伸ばして手入れできる限界であると同時に、窓の上端まで覆うことのできる高さである。また、横方向の寸法は、コンテナ、地植え共に遮蔽目標となる窓の横幅である約60cm、90cm の整数倍の幅をもっていた。

以上から緑のカーテンの代表的空間を考察すると、設置位置は、日射遮蔽が必要な方位で2m 程度の奥行きがある場所である。また、カーテンの大きさは2m × 1m という縦置きの大の構成単位をもつ。これは、ヨシズなどと同じく、人々自らが設置場所を決めることができる、扱いやすい大きさの夏支度だと見なせる。それは、緑のカーテンの社会的意義をPR するときに紹介される小学校等の公共施設の壁面よりも遥かに小さく、むしろ、人々の身体的スケールと呼応した大きさである。

3. ブログ主における緑のカーテン栽培体験の概要

1) SCAT によるブログの分析例

本章以降においては、対象ブログの文章テキストをSCAT によりコーディングして分析を進めることによって、緑のカーテンの栽培体験を明らかにした。

Table 3. Spatial outline of green walls.
第3表. 緑のカーテンの空間的な概要.

ブログ主	A(3箇所栽培)			B	C	D	E	F	G	H	
その他の園芸活動	庭園で植物			ベランダで他コンテナ	(なし)	共用部でカーテン栽培、ベランダで他コンテナ	(なし)	ベランダで他コンテナ	庭園で植物	庭園で植物	
他カーテン栽培植物	フウセンカズラ (ゴーヤのみ)	(ゴーヤのみ)	アサガオ、ルコウソウ	ユウガオ、キワーノ	アサガオ、フウセンカズラ	(ゴーヤのみ)	(ゴーヤのみ)	(ゴーヤのみ)	(ゴーヤのみ)	(ゴーヤのみ)	
定植場所	地植え	地植え	コンテナ	コンテナ	コンテナ	コンテナ	コンテナ	コンテナ	コンテナ	地植え(栽培土をブロック仕切)	
定植位置	戸建て: 地上(庭)	戸建て: 地上(庭)	戸建て: 地上(庭)	集合: ベランダ	戸建て: 地上(庭)	集合: ベランダ	戸建て: 地上(駐車場)	集合: ベランダ	戸建て: 地上(庭)	戸建て: 地上(駐車場)	
定植方位	南(1)	南(2)	西	南東	南	東	南	南	南	東	
カーテンの寸法: 断面	断面: 2m以上の庭(地面) - 掃出窓/1階 - 2階ベランダ - 2階軒	断面: 数m以上の庭(地面) - 1階窓(侵入防止柵) / 上部湾曲 - 1階軒	断面: 1階軒下コンクリたたき/プランタ+支柱1m	断面: 手すり - 2m(一部柱型凸)ベランダ - 掃出窓/ベランダ上部底なし	断面: 道路 - 庭(舗装) - 掃出窓/窓上部の軒	断面: 手すり - 2m/バルコニー - 掃出窓/手すり側0.5mの位置にプランタ台 - 斜めの柵組 - サッシュ上部	幅員5m道路 - 1.5mコンクリたたき - 建物窓サッシュ	手すり - 2mベランダ - ガラス窓/屋根/欄上部曲がる	オープン外構 - 南面庭 5m(0.5m舗装たたき) - 腰高窓/縦長窓 × 2 庇無し	隣家 - 街路 - 砂利敷5m - 掃出窓/コンクリブロック0.3m - 窓上部底無し	
カーテンの寸法: 立面(m) ^z	A立面: H6 × W1.8	B立面: H2 × W1.2	C立面: H1 × W0.6	立面: H2 × W1.8	立面: H2 × W2.4	H0.9 ~ 2 × W2.7 (斜め掛け天幕型カーテン)	立面: H2 × W3	立面: H2 × W1.2	H2 × W2 (横に1m程度つがる伸びる)	H3 × W1.8	

^z Hは高さ、Wは幅を示す(単位m)。

まず、文章量が最も多く、戸建て住宅周囲の3か所で栽培するAさんの分析シートから、全分析対象59切片の分析のうち9切片の抜粋と、全切片によるストーリーラインを例示する(第4表)。なおSCAT分析は、元テキストを分割した各切片について、「〈1〉テキストの中の注目すべき語句」に対して、「〈2〉テキストの中の語句の言い換え」を行い、「〈3〉左を説明するようなテキスト外」の概念を記入する。これらを前提に記入された「〈4〉テーマ・概念構成」は、切片テキストを、段階的な明示的・段階的な手続きを踏んで概念化したものとなる。さらに、「〈5〉疑問・課題」も記入して、前後の切片での分析を参考にし、時折、すでに記入した項目も見直ししながら、分析を進める。

本研究において、この〈4〉の縦軸は、切片を概念化して時系列で並べたものとなり、発芽や定植期(第4表i)、成長期(第4表ii)、停滞期(第4表iii)、枯死(第4表iv)と1年草栽培の各段階に沿った概念が並んだ。そこでは、作業そのものの記録だけではなく、植物の成長の報告、作業結果の自己評価や検証、ブログ主がカーテンに求めている機能の紹介などが挙げられ、ブログ主の栽培体験の総覧となっていた。

次に、〈4〉の縦軸をまとめストーリーラインとし、栽培の各段階におけるブログ主の栽培体験を一連の文章として記述した。Aさんは、複数箇所でゴーヤ栽培を行い、それを比較し、自分の作業の妥当性を検証している。

Table 4. Example of SCAT analysis (excerpt from participant A's case study).
第4表. AさんによるテキストのSCAT分析例.

元テキスト抜粋 ^z	〈1〉テキストの中の注目すべき語句	〈2〉テキストの中の語句の言い換え	〈3〉左を説明するようなテキスト外	〈4〉テーマ・概念構成(前後や全体の文脈を考慮して) ^y	〈5〉疑問・課題
多くの種を採取できた。保存方法が悪かったのか。カビ。残りませんでした。全部植えられるスペースはない。何分初心者。全部無事に発芽させられるかどうか分からない。とりあえず全部	全部無事に発芽させられるか分からない。とりあえず全部	昨年種を収穫。保存にやや失敗。発芽作業が成功するかどうか不明	すべて発芽は有り得ない。高い目標	発芽作業。高い作業目標。成長の期待と不安	ブログ主の几帳面さ。他切片でも確認すること
定植作業。大きくなり始めると早い早い。市販のゴーヤの苗ぐらい。蔓もしっかり。…ということなので。まさに最適な状態。ひとつだけ発育不良。まあこれも自然なこと。根はシッカリ伸びていた。理由は一体何だったのか。個体差は結構ある	定植。早い早い。最適な状態。ひとつだけ発育不良	発芽後の成長は順調。市販の苗程度。定植	作業上の原因ではないと推定している	定植。大勢は順調。作業の妥当性を超えた植物自身の成長力	
少し放っておいたら勝手に絡んでました。生長早え	勝手に絡んで。生長早え		初夏の成長力	植物自身の成長力	季節に関する記述を確認
一応無事。誘引も無事終了。本葉の数も9枚を超えている。摘芯はもう少し伸びてから	無事終了。本葉の数も9枚。摘芯	蔓の先端がネットに到達。誘引完了	複数箇所の比較	蔓の成長。観察。定植までの初期段階終了	これ以降で、期待に関する記述は変化するのか
花もつき始め。目的は見ではなく。緑のカーテンとなる生い茂った。実は。ゴツゴツした特徴。もちろん楽しみ	花もつき始め。目的は。生い茂った葉		実も鑑賞用と考えている	開花。カーテンの機能:遮蔽。実も鑑賞	実の収穫や調理を行っているのか
何はともあれ。どの緑のカーテンも順調に生長中。今年は実際気温はどうであれ。気持ち的に涼しい夏が過ごせそうですな(笑)	順調に生長中。気持ち的に涼しい夏	カーテンは順調に成長。実際の気温ではなく。気持ちがか涼しくなる	観賞用としての実。葉の茂り方に関する興味。今年の夏	カーテンの機能:日射遮蔽と同じく鑑賞も等しく重要	日射遮蔽。鑑賞いずれに重みがあるのか
目立った変化は確認できず。水または肥料不足。酷暑。育て方の限界か。育ちきって欲しい。どのみちもう時期は過ぎてしまうので	目立った変化は確認できず。育て方の限界か。育ちきって欲しい	変化しない。葉が繁茂	複数栽培の比較。出来る限り高く仕立てる栽培/1階分の高さ栽培	盛夏。成長の停滞。カーテンの未完成と完成	ここから停滞、老化はどこからかか
こちらは重量感がヤバい感じ。緑の壁。真正面からシャワーぶっかけても裏側に水が届かない。重厚さ					
秋もそろそろ本番。急激なある変化。全体的にうつすらと。しかし確かに枯れ始め。夕暮れから朝方にかけては欠けた冷え込み。あれほどの不動要塞ぶり。枯れるペースが早い。たった一週間で。成長速度と枯れる速度は比例だったとか。少しショックでした。さすがにもう寿命	秋もそろそろ本番。急激なある変化。確かに枯れ始め。冷え込み。ショックでした。さすがにもう寿命	気温の低下。成長が早い場所ほど枯死も早い	複数箇所の比較	枯調。植物自身の成長力(反対の作用)。寿命	ここから枯死
撤去作業。多分11月に入ってから。もう少しこのまま置いておく。記録。本日を持って終了。今年も半年近くの間お疲れ様でした！構築するかどうかは分からない。もし機会があるなら。もっと綺麗なカーテン構築に挑戦	今年も半年近くの間お疲れ様でした。もっと綺麗なカーテン構築に挑戦	来年度の栽培は未定。実行するのならさらに綺麗に栽培したい	緑のカーテンの機能:鑑賞	ゴーヤへの感謝。将来の作業修正。ただし終了の可能性	

^z 元テキストは原文のまま引用した。

^y ストーリーラインで使用した語句には下線を付した。

^x 1年草栽培の各段階にそって i:発芽や定植期, ii:成長期, iii:停滞期, iv:枯死 それぞれの時期を表している。

2) ブログ主ごとの栽培体験

他のブログについてもストーリーラインを得て、ブログ主ごとの栽培体験を検討した（第5表）。

作業してから比較・検証というAさんの体験に類似したものとして、数年の栽培経験があるEさんも過去との比較を行うが、それは、天候（第5表①）についての高評価や低評価へと繋がっている。同様に数年栽培しているBさんは、アクセス数への言及などでブログ読者を想定したうえで、自身の栽培体験に基づく実践的な知識（第5表②）を伝えようとしている。

Fさんは複数品種のゴーヤを栽培して比較・検証しているが、他にも多くの植物を栽培しているため、手間の掛からないゴーヤについては気楽な姿勢（第5表③）で臨んでいる。Dさんもカーテン栽培経験が豊富

であり、こちらでは、天候に左右されながらも、ゴーヤがもつ成長力を信頼（第5表④）している。総文字数が少なく簡潔な文章によるGさん、Hさんのブログでも、ゴーヤ栽培は、気楽（第5表⑤、⑥）な楽しみとして捉えられている。

以上のブログ主とは異なり、初めて植物を栽培するCさんにとって、ゴーヤ栽培は気楽さとは対極の体験となる。情報収集し戸惑い（第5表⑦）ながらも作業をし、その努力を受け止めたゴーヤの成長を喜んでいる。

3) 対象ブログ総体としての栽培体験

栽培体験はブログ主ごとに異なる部分もあるが、1年草の植物ゴーヤの生涯は共通しており、成長の各段階でブログのストーリーラインを集約することができ

Table 5. Story-lines for each blogger.
第5表. ブログ主ごとのストーリーライン.

ブログ主	ストーリーライン
B	複数年の栽培経験をもつブログ主は、日射遮蔽機能のためのカーテン完成時期から逆算して発芽・定植の時期を決めて作業、主蔓だけに着目して摘心する。本年は予想外に梅雨明けが早かったが、十分に日射遮蔽できるだけ繁茂し、それまでの作業の妥当性を確認する。盛夏以降は記述が減るが、収穫、調理、種取りなどの作業を順次紹介している。なおブログ主は、半匿名の著述家のため、常に閲覧者を念頭に置き、ブログが独自の情報源となるよう心がけている。他サイトで直接閲覧できるような、一般化された「教科書どおり」の知識ではなく、自身の栽培によって得た 実践的な知識② と作業方法の紹介である。さらに、アクセス数から読者がゴーヤ・緑のカーテンに興味を持つ時期を4月から7月までと推定し、カーテンが機能発揮する盛夏以降とは時期が異なると指摘している。
C	ブログ主は、本年初めて植物を栽培するため、記事の短さにも関わらず、さまざまな成長段階において感情を鮮明に述べている。家族から別植物の苗を渡されたことを契機としてゴーヤ等の栽培を開始。盛夏に至るまでは、情報収集し、 戸惑い⑦ 、疲れ、達成感を感じながら作業を続け、成長を見る喜びを述べている。作業に際して、ブログ主にはインターネットを利用し「教科書どおり」正解の作業を探そうという性向がある。それは、成長を制御したいという希望、作業を受動的に反映する植物という認識へと繋がる。辛いが、適切な作業の成果（自然でも植物自身の力でもなく）としての繁茂である。しかし、結実は、植物自身の成長力として捉えられたという側面もある。盛夏過ぎ、枯凋が始まり、辛い作業を徐々に中止するようになる、これは、初期作業の完全主義とは対照的である。秋以降、来年に向けて栽培への意欲を強くもつ。
D	ブログ主は、マンション共用部で栽培を任されるほど緑のカーテン栽培の経験と自信をもつ。カーテン仕立ての植物のうち最も成長力があり栽培が容易だとして、ゴーヤを播種、定植をする。その後ゴーヤは天候の影響を受けながらも植物自身の成長力によって繁茂、結実する。盛夏、カーテン機能である日射遮蔽を定量的に報告・紹介しているが、その後の晩夏には繁茂が「 暗くて鬱陶しい⑨ 」と感じられるようになる。その感情は、秋の撤収時には「すっきり」へと変化し、直後、別植物の栽培へと移行する。栽培全体を通じて、ゴーヤがもつ 成長力を信頼④ し、発露させるために、手慣れたこととして作業を行っている。
E	複数年の栽培経験をもつブログ主は、常に、過去との比較をしながら成長段階を報告し、それに対応した作業を行う。播種からゴーヤ栽培を開始、梅雨までの成長は順調で、これを梅雨から夏にかけての 天候① 、これに加えて植物自身の力＝自然の恵みとして捉えている。しかし初開花まで順調だったが、梅雨明け以降から枯死が目立ち成長不良となる。梅雨明けが早く夏の気温が高すぎたためと推測する。主機能である道路からの輻射熱の遮蔽も不十分で、結実も少なかった。しかし、カーテンの撤収時、ブログ主は、本年の 天候① と成長不順も受け入れ、カーテン機能が不十分な年であっても「 夏はゴーヤが主役⑧ 」として栽培を楽しんでいる。
F	このブログはバルコニー園芸全般に特化し、雑誌・TV取材を受けるなど著名ブログである。ブログ主は園芸に習熟しており作業に迷いがなく、栽培当初からゴーヤをカーテン用、食用に分けて別々の品種、かつ、今まで栽培経験のない品種を試みている。播種から栽培を開始し、カーテン用としては徹底的な花摘み、食用ゴーヤは人工授粉と、それぞれの機能に併せて作業をする。ただし食用ゴーヤも、途中でカーテン用途にも仕立てることになる。これは、技量に自信をもつが、 気楽な姿勢③ で栽培に臨んでいること示している。盛夏、日射遮蔽、収穫とも満足で、適切な作業だったと総括している。収穫が終わると即座に撤収している。これは、多品種を栽培するブログ主の、ゴーヤに対するこだわりのなさを示している。
G	ブログ主は、趣味活動と家事などを紹介するブログのなかの一家事として緑のカーテン栽培を扱っている。栽培の始まりは実家からの苗、撤去も家事の「ついで」であり、記述量も少なく、総じて 気楽⑤ さが前面に出る。成長への期待、発見、収穫の喜びから、撤収時の振り返りや感謝、撤収後の「 スッキリ⑩ 」感までの感情が述べられている。
H	このブログは飼い犬が頻りに登場するペットブログであり、ペットに関連してブログ主のいくつかの趣味が扱われている。ブログ主はマイペースでの 気楽⑥ な趣味の一つとしてカーテン栽培を開始し、家族とともに作業し収穫している。犬が擬人化されて登場し、カーテンの成長・完成・枯凋を室内から見つめ独白する。そのため、カーテンにより室内と視覚的に一体になった場所として、窓外の空間が述べられている。

² 表中の①～⑩は本文中での引用箇所。

る。これを対象ブログ全体の栽培体験としてまとめ、考察する。

播種と定植：初心者や気楽なブログ主は購入した苗の定植から作業を開始するが、熟練者は種子繁殖を行う。また、熟練者は、カーテン完成時期や気候から逆算し、定植時期を検討している。

成長期：定植直後から、ブログ主は、生育に影響を与えるそのシーズンの天候を意識し高評価/低評価するようになる。天候に影響されながらも、梅雨から初夏にかけての茎や蔓の成長、葉の繁茂は目覚ましく、植物自身の成長力が賞賛される。この成長力に対応して誘引等の作業が行われる。

完成：茎が成長しカーテンを形成した際、ブログ主はカーテンに、日射遮蔽（直達日射、輻射を含む）・視線遮蔽・鑑賞・収穫の機能を求める。なお、日射遮蔽は、視線遮蔽による開放感、鑑賞をも含め、気分的な涼しさとして体験されている。「夏はゴーヤが主役」（第5表⑧）とは、成長期において梅雨～初夏の気候により著しく成長し、完成期に各機能を人々に与える植物としてのゴーヤの捉え方である。

成長の限界：盛夏、成長が停滞するが、この時期、ブログ主は、日射遮蔽の機能を最も必要としている。その後、ゴーヤは再び成長し繁茂するが、初秋に入ると日射遮蔽の機能はさほど要求されず、繁茂はむしろ「暗くて鬱陶しい」（第5表⑨）と捉えられる。この時点で、ブログ主の季節感と、ゴーヤの成長にズレが生じる。

枯死：枯凋の始まりとともに撤収する場合、ほぼ全てが枯死するまで見届けようとする場合があるが、撤収は「スッキリ」（第5表⑩）することと捉えられている。緑のカーテンが無くなり「スッキリ」した窓辺で、新しい季節を迎える時、ブログ主は春から初秋までのゴーヤの寿命を振り返り、生命活動に感謝する。

4. 緑のカーテン栽培体験の論理記述

1) カテゴリ関連による栽培体験の詳細

SCATでは、主対象とする個人ヒアリング等での分析の場合、一人のストーリーラインを再び断片化し、重要部を抽出して一つの論理記述を得ている。これを参考に、本研究では、複数ブログ主をまたいだ論理記述を得るため、まず、全ストーリーラインを断片化して重要な短文のみを抽出した。さらに、重複を整理してコードとした。

このコードを相互の類似性と関連性に基づいて収集・分類した。分類は2段階となり、まず栽培による人間と植物の関係の大分類を集約して【カテゴリ】とした。その中には複数のコードが存在するので、類似したものを集約し【サブカテゴリ】とした。この分析により、ブログ主の栽培体験を形づくる行為や解釈が、どのような関連をもつのかを明らかにすることができた（第1図）。

【世話をする】：最初に、ブログ主が栽培のための作業を始めるコード群から収集することができた。これは、ブログ主や作業の違いにより【手慣れた作業】から、

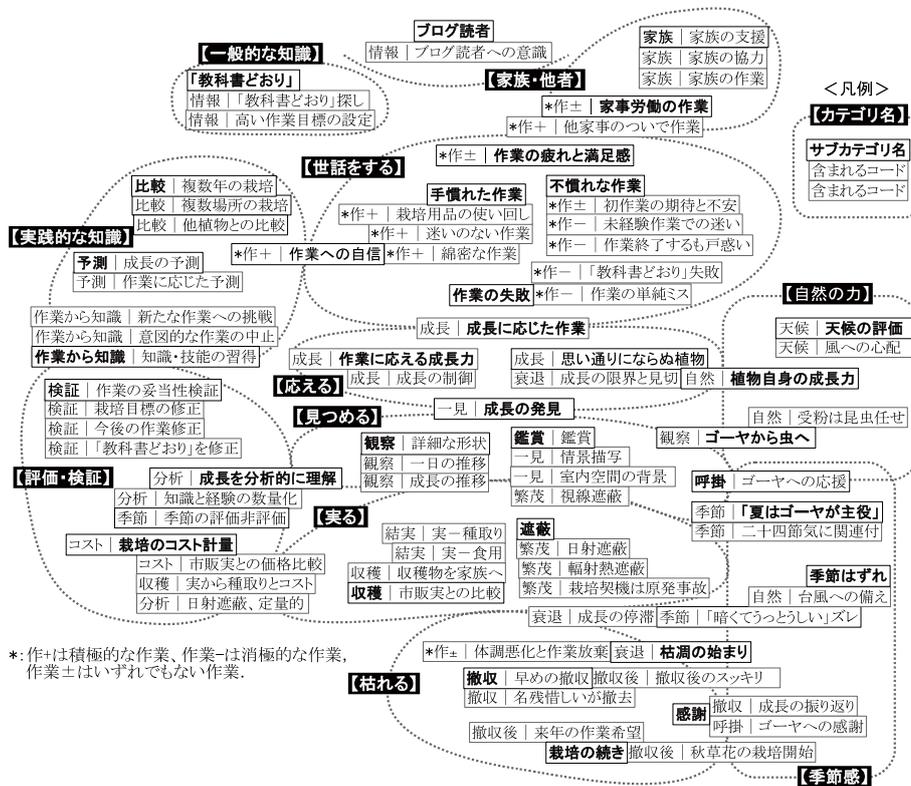


Fig. 1. Category association chart for green wall cultivation experiences.
第1図. 緑のカーテンの栽培体験のカテゴリ関連図.

[不慣れな作業] まで異なる習熟度を示す作業である。なお、本カテゴリに関連して、【家族・他者】がある。

【応える】：ゴーヤは[作業に応える成長力]により成長する。しかし、[思い通りにならぬ植物]は、人の働きかけに受動的に応えるのみならず、自発的な[植物自身の成長力]により成長するとも捉えられている。

【見つめる】：ブログ主は、働きかけに応えるゴーヤの[成長の発見]をする。さらに、ここでブログ主のさまざまな見つめは、分析的な視座である[観察]、叙情的な視座である[鑑賞]へと二つに分かれる。

成長が完成して以降は2カテゴリがあり、【実る】を経て【枯れる】と関連していき、最後にブログ主は【撤収】、そして[栽培の続き]をする。

上記のカテゴリは、人間と植物の直接的なやりとりを、1年草の生涯に沿って示している。このカテゴリ関連を主軸として、周縁にカテゴリ群が附置された。

【評価・検証】：ゴーヤへのブログ主の見つめのうち、[成長を分析的に理解]することは、実りの時期における[栽培のコスト計量]と共に、[検証]へと関連する。

【実践的な知識】：検証によって、ブログ主は栽培についての[作業から知識]を得る。その知識は、[比較]や[予測]などと関連して、ブログ主の栽培体験によって個別具体化された実践に基づく知識である。これは、ネットや栽培本にある【一般的な知識】と対置される。

つぎに、人為的な関連とは反対に、栽培を通じた自然現象の解釈についての2カテゴリがある。

【自然の力】：ブログ主は、[植物自身の成長力]を人為の及ばない事象としても捉えている。それは、ゴーヤを擬人化して[応援]したり、[天候の評価]をすることなども含む。

【季節感】：ブログ主は、春、夏、秋さらには早春、盛夏などの長さの期間を単位として、ゴーヤの成長や枯凋を[[夏はゴーヤが主役]]や、[季節はずれ]だと捉えている。これは、【枯れる】と関連して、寿命をもつ1年草ゴーヤへの[感謝]を含むとともに、その後の[秋春草の作業開始]さらには[来年の作業希望]とも関連する。

2) 栽培体験がもつ二つの側面

前節の関連図を【カテゴリ】水準で要約した(第2図)。栽培は人々が【世話をする】ことから始まっている。そこでは、初めての栽培作業として定植用の柵を設置したときの、「ちょおー疲れました。ぶっ細工なデキですけど、いいです。もういいんです!色々初めてなので、試行錯誤しております。」(Cさん)、などのように、「手間」として栽培体験が始まることが示唆されていた。そして、人の働きかけに【応える】植物は成長する。

人々と植物のやりとりを踏まえたゴーヤの成長を、人々が【見つめる】ときから、「楽しみ」としての栽

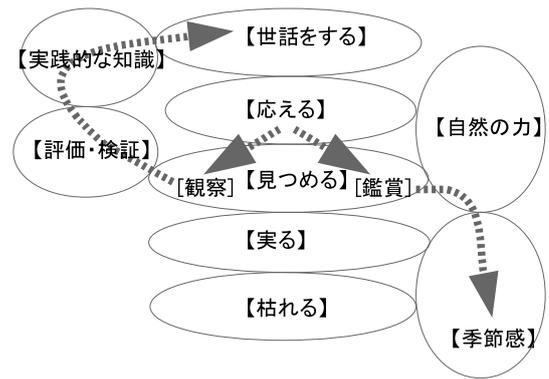


Fig. 2. Summary of category association chart.
第2図. カテゴリ関連図の概要.

培体験が続くようになると考えられる。そこでは、行為や解釈は二つに分かれて関連しており、栽培体験は二つの側面をもって深まっていた。

一方は、「ゴーヤは親蔓を8葉で摘心した後、子蔓が末広がりに1.5mほどに伸びてきました。困った事にゴーヤの蔓は伸びて順調に30個ほど花を着けたが、咲く花は全て雄花ばかりで、まだ1個として雌花が咲きません。」(Bさん)のような分析的な観察から、【評価・検証】→【実践的な知識】と人為的な作業の解釈へと発展していた。

他方は、「今朝、雨が止んでベランダに出てみたら、ゴーヤの花が一輪咲いているのに気づいた。今年最初の開花。ほかのゴーヤの株にも花芽はあるが、まだ蕾にはなっていない。きょう開花したのも、雨が降り続く間に蕾になっていたのか?」(Dさん)のような叙情的な鑑賞から、【自然の力】→【季節感】と、人為の及ばないことへの解釈へと発展していた。

観察からはじまる体験による【実践的な知識】は、再び作業への自信へと繋がり、作業の「手間」を減らして習熟する「楽しみ」を深める。また、鑑賞からはじまる体験は、【世話をする】→【応える】という時間軸の続きにあるゴーヤの【実り】→【枯れ】という1年草の寿命と並行して、こちらも四季を感じる「楽しみ」を深める。この深まりは、最後にカーテンを撤収する際、春から初秋までの自然の力により生きた植物としてゴーヤをとらえて感謝することへと繋がっていた。もっとも簡潔なこのテキストを以下に挙げる。

「ネットを立てた時のことを考えながら、ゴーヤに感謝しながらバツサリ。ゴーヤちゃん、ありがと!」(Gさん)

おわりに

質的分析によって明らかにされた栽培体験の詳細は、人々の世話、これに応えるゴーヤの成長、人々の見つめという一連の行為や解釈から始まっていた。そして人々の見つめは、ゴーヤを観察し、作業の検証をしてから実践的な知識を得ること、ゴーヤを鑑賞し、

人為の及ばない自然の力や季節感をとらえることへと繋がっていた。

人々の見つけが二つの側面をもち、そこから栽培体験の各側面が深まっていくことが要点である。観察という側面は、実践的な知識の習得へと繋がり、のちの栽培の「手間」を減らし、知識の習得そのものも「楽しみ」となる。これは、分析的な楽しみの深まりである。一方、鑑賞という側面は、季節感の捉えへと繋がりますが、これは、叙情的な楽しみの深まりとなる。

栽培の容易なゴーヤのカーテンにおいて、松尾(2005)の言う「栽培の手間」は、他の植物と比べて少ないが、リビングの窓辺にカーテンとして仕立てられた身近さにより、成長への「愛着がわく」楽しみとなりやすい植物である。その楽しみが二つの側面をもって深まることに着目して、人々を栽培へと誘うことが、これからのカーテン普及に役立つと考えることができる。

摘 要

本研究の目的は、日常生活のなかでゴーヤによる緑のカーテンを栽培する人々が、栽培体験のなかで何を学び、感じているのか、その詳細を明らかにすることである。そのために本研究では、趣味活動としての緑のカーテン栽培をアツクあった個人の8ブログ記事を対象に、大谷のSCATに沿って質的分析を行った。なお、人々が栽培する緑のカーテンは畳大で、身体的スケールに呼応した大きさであった。

まず、SCATのストーリーラインによりブログ主ごとの栽培体験を検討した。ブログ主は栽培のための作業をした後、それを検証して実践的な知識としていること、天候に左右されながらも、ゴーヤがもつ成長力を信頼していることなどが明らかになった。また、対象ブログ全体に共通する栽培体験を、植物の成長段階に応じてまとめることができた。

さらに、SCATの論理記述をコード化して分類整理し、栽培体験を、人々の世話、これに応えるゴーヤの成長、人々の見つけという一連の行為や解釈から始まる9カテゴリに集約し、栽培体験の詳細を明らかにした。

カテゴリ相互の関連のなかでの着目すべき点として、人々の見つけを挙げることができる。見つけは観察と鑑賞という二つの側面をもち、それぞれが、ゴーヤを観察し、作業の検証を経て実践的な知識を得ることへ、ゴーヤを鑑賞し人為の及ばない自然の力や季節感を捉えることへと繋がっていた。ここから、ゴーヤの栽培体験における楽しみとは、分析的な側面、抒情的な側面をもって深まることが明らかになった。

引用文献

- 地球温暖化防止国民運動事務局. 2013. 8. 27. (調べた日付). グリーンカーテンプロジェクト 2013. <http://www.challenge25.go.jp/green/>
- Google Inc. 2013.8.27.(調べた日付). Google について. <https://www.google.co.jp/intl/ja/about/>
- 梅干野 晃・茶谷正洋・八木幸二. 1985. ツタの西日遮へい効果に関する実験研究. 日本建築学会計画系論文報告集 351: 11-19.
- 加藤真司・桑沢保夫・石井儀光・樋野公宏・橋本 剛・池田今日子. 2012. 集合住宅における緑のカーテンの温熱環境改善効果研究. 日本緑化工学会誌 38 (1): 39-44.
- 菊本るり子・のぐちようこ. 2012. みどりのカーテンをつくろう. あかね書房. 東京.
- 松尾英輔. 2005. 社会園芸学のすすめ-環境・教育・福祉・まちづくり-. 農山村文化協会. 東京.
- 成田健一. 2007. 緑のカーテンが教室の温熱環境に及ぼす効果. 環境情報科学論文集 21: 501-506.
- にほんブログ村. 2013. 8. 27. (調べた日付). ブログ村を一言で言いますと. <http://help.blogmura.com/help/about/summary.html>
- 延原理恵・浅野三奈. 2010. 緑のカーテンによる教育環境改善とその効果: 京都市立小中学校を対象としたアンケート調査. 日本建築学会学術講演梗概集 E-1: 443-444.
- NPO 法人緑のカーテン応援団. 2009. 緑のカーテンの育て方・楽しみ方. 創森社. 東京.
- 大井彩子・上野勝代・梶木典子. 2011. 地域における緑のカーテンを活用した環境教育実施の効果-神戸市「緑のカーテン啓発事業」の事例から-. 日本建築学会学術講演梗概集 F-1: 1377-1378.
- 大谷 尚. 2008. 4ステップコーディングによる質的データ分析手法 SCAT の提案-着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き-. 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学) 54(2): 27-44.
- 大谷 尚. 2011. SCAT: Steps for Coding and Theorization -明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法-. 感性工学 10(3): 155-160.
- 尾崎 平・松百佳子・石垣泰輔. 2009. 緑のカーテンの阻害要因分析に関する研究. 日本土木学会第64回年次学術講演会: 191-192.
- 下村 孝・黒宮ゆかり・上町あずさ. 2007. 家庭における室内緑化植物の利用実態と利用者の意識. 人間・植物関係学会雑誌 6(2): 31-39.
- 鈴木秀章. 2012. 「緑のカーテン」~政策の社会的受容~. 自治総研 407: 71-86.